

## 年間第十四主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

### （一）聖書朗読：マタイ 11：25-30

イエスはこう言われた：父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。すべてのことは、父から私に任せられています。子と子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。私は柔和で謙遜な者だから、私のくびきを負い、私に学びなさい。そうすれば、あなた方は安らぎを得られる。

### （二）カテキズムの響き：カトリック教会のカテキズムの番号 # 459、544、1505、2603、2779、2784-2785；YOUCAT #520-522

イエスは感謝の祈りで、御父を宣言し、御父を認め、御父が知恵ある者と自負している人々には神の国の神秘を隠し、幼子のような者にはお示しになられたことを褒め称えています。「そうです、父よ」という喜びの叫びは、イエスの本心を示し、御父の思し召しへの賛同を表すものです。私たちが御父の養子とするこの無償の賜物は、私たちに対しては絶え間ない回心と新しい生き方を求めます。御父に祈るならば、二つの基本的な心構えが培われるはずで、一つは、御父に似た者と成りたいという望みと意志に従って、キリストに学び、神の子に相応しい生き方をしなければなりません。それは、十字架上で、キリストは悪のすべての重荷をご自分の上に背負われ、世の罪を取り除かれたことです。キリストは十字架での受難と死を通して、苦しみに新たな意味を与えられました。即ち、苦しみは私たちがキリストに似た者とし、キリストの限らない愛と贖いの苦しみに私たちが一致させることができるようになったのです。だから、「私のくびきを負い、私に学びなさい」と言われたキリストは、私たちの愛徳の模範になります。

もう一つは、謙虚で信頼に満ちた心をもって、回心して幼い子のような者になります。私たちの父と呼び名は、私たちのうちに深い愛情をわき上がらせてくれます。また、ご自分の子としてしまった子供たちの祈りを聞き入れないわけがありません。実は、神の国は貧しい人々と小さい人々、即ち、謙虚な心でこれを迎える人たちのものです。だから、御父は知恵ある者や賢い者には隠されていることを、これらの「幼い子」にこそ示されるのです。私たちが主の祈りのこの最初の出だしの言葉を自分の者にするためには、まず私たちの心をこの世的な発想から生じる様々な誤ったイメージから謙虚に浄化する必要があるでしょう。謙虚さがあれば、私たちは父を知るように、子が示そうと思う者とか幼い子のような者になります。

### （三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

# 46、583 神の子が神を「父」と呼ぶこと：

- キリストは神が父であることを啓示なさいます。万物と人間の創造主だけではなく、永遠からその懐において、御子を生み出される方です。
- 神の子としての私たちが御子のうちに神を「父よ」と呼ぶことは、私たちに神の子に相応しく生きる望みをわき上がらせます。

# 314 キリストの贖いの苦しみと結ばれること：

イエスとともに神の国が、つまり、罪と苦しみと死に対する勝利が到来したことははっきりとしたしるしです。即ち、苦しみはイエスのそれと結ばれるなら、私たち自身と他の人の清めと救いの手段になりうるのです。

最後の祈り：共同祈願の後、マタイ福音 11：25b-29 節をキリストとともに祈ります。